

2017年(平成29)5月10日(水) 第40回 例会 (通算2746回)



人類に
奉仕する
ロータリー

RI 会長: ジョン・F・ジャーム

Weekly Report No.2625

Rotary International District 2580

石垣ロータリークラブ



石垣ロータリークラブ

地区ガバナー: 上山 昭治氏

「出会いを大切に」

ロータリーレート \$1=¥110

石垣ロータリークラブ55年のあゆみ

1995~1996年度

会長テーマ《見つめようロータリー 高めようロータリー》

副会長 糸洲 長勇 幹事 池間 義則
副幹事 宮良 祐次



三十五代会長 豊川 敏彦

- 第4回青少年交換ホームステイ受入(8/16-22)
- 台東東 RC との友好クラブ継続締結(4/6)
- 創立 35 周年記念式典並びに公開例会開催。記念事業として、大瀨信泉生誕百年記念事業期成会へ 50 万円寄付

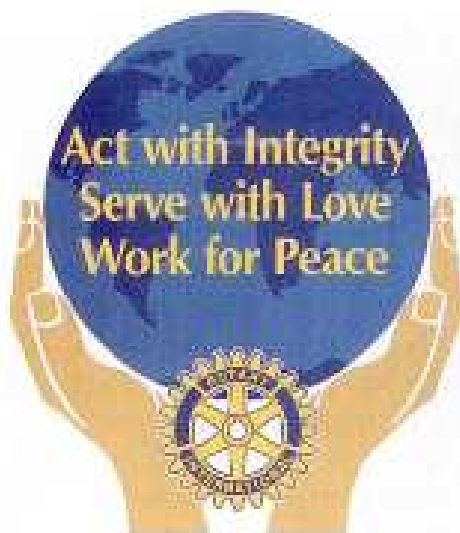
《社会情勢》 1996 年

- ・初の国際チャーター便(ANK)石垣・台湾間就航
- ・石垣市、台湾宜蘭県蘇芳鎮と姉妹都市締結

【RIテーマ】



1995~96 年度 RI 会長
ハーバート G・ブラウン
(米国・オパルーサス RC)



真心の行動
慈愛の奉仕
平和の挺身

会 長 : 前木 繁孝 副 会 長 : 大浜 一郎 幹 事 : 前原 博一
副 幹 事 : 宮城 早人 SAA・出席: 遠藤 正夫 情報・会報: 宮良 薫

例会日 水曜日 12:30~13:30
例会場 アートホテル石垣島(0980)83-3311
事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4

TEL/FAX(0980)83-2917
URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>
E-mail ishirotaary@ninus.ocn.ne.jp

— . . . — 第2745回 2017年4月26日(水) 例会報告 — . . . —

- 司会進行：小底 厚子
- ロータリーソング：奉仕の理想・四つのテスト
- ソングリーダー：宮城 早人
- ゲスト：大山 剛氏(八重山の医療を守る郡民の会 事務局長)
- ピジター：伊藤 卓巳氏(相模原西 RC)
- メイクアップ：小林昌道・白道直行・渡久地明
大浜 勇人・佐久本 達・宮良 薫・上原 晃子
- 出席報告

会員総数 39名 出席義務会員 38名
 出席数 23名 欠席数 15名
 出席率 60.53%(4月通算出席率 62.28%)

 **本日のここここ**

| | 小 計 | 累 計 |
|-----|--------|----------|
| BOX | ¥7,000 | ¥250,000 |
| コイン | ¥1,569 | ¥122,006 |
| 合 計 | | ¥372,006 |

- 相模原西ロータリークラ (伊藤 卓巳)
- 指田文庫への寄付の為、前木会長に同行しました。(仁開 一夫)
- 大山 剛様、有難う御座います。(大濱 達也)
- 大山さん、卓話頂きありがとうございました。(橋本 孝来)
- 本日の卓話、大山剛、島の大先輩、誠に有難うございます。感謝をこめて。(上勢頭 保)
- 昨日さとうきび全量向上へ搬入できました。明日 4時より修了式です。感謝です。
- 本日竹富島の指田文庫へ寄付をしてまいりました。ゲスト卓話の大山様、為になる話をありがとうございました。(前木 繁孝)

会長挨拶：前木 繁孝



すごい大雨でした。あちこちで消防車が活動していましたが、うちの事務所の前でも初めてですが、増水で床下浸水してポンプ車が稼働していました。記憶に残るような大雨だったと思います。

そんな中、竹富島へ行って参りました。指田文庫に今年も寄付をお渡しすることが出来ました。皆さんにお礼とご報告を申し上げます。竹富小中学校の校長先生が出張と言う事で、教頭先生に対応してもらいました。生徒会長、児童会長にも同

席してもらい、指田文庫の経緯を説明した後、生徒会長からお礼の言葉を頂きました。今日は当時指田文庫が設立されるにあたって、ご尽力なされた上勢頭保さんと仁開一夫さんに同行してもらい、お陰様で私があまり知らない部分をフォローして頂きました。

本日ゲストに大山剛さんに来て頂いております。地域医療についてというタイトルでお話をいただきますが、本当に大山様は各方面でご活躍されていて、精力的にいろいろな事を皆さんに教示してくれたり、すばらしいパワーのある先輩です。今日は楽しみにしております。

幹事報告：前原 博一

1. 去った4月14日の浦添 RC50 周年記念式典がありました。そのお礼状が届いております。
2. 本日午前中に会長・仁開・上勢頭さんと竹富小中学校へ行き、指田文庫への図書費寄贈を行ってきました。

ゲスト卓話：大山 剛氏

八重山の医療を守る郡民の会 事務局長

テーマ「地域医療について」



日本には小さな島が 6,000 あり、その内 4,000 に人が住んでいます。石垣市は尖閣列島を含め 14 島、竹富町が 16 島、与那国が 2 島で、八重山郡に 32 島の島があります。その中の一番南西端に我々は住んでいるわけです。我々は南の玄関であるという自負を持っていますが、そこには感染症という危険も潜んでいます。台湾には牛の感染症、口蹄疫があります。沖縄県の牛の 1/2 は八重山にいますので、口蹄疫が入って来ると八重山の牛は全部廃棄処分になります。そういう動植物等について、水際作戦で阻止しないといけないという事があります。また過去に八重山ではピストルや麻薬の密輸事件がありましたが、八重山署が頑張って阻止しております。南の玄関だからこそ、良い物だけではなく、悪い物も入って来る可能性があります。もちろん医療に関しても同じです。急病でヘリで運ばれてくる場合、感染症を持っているのかどうか、現在の八重山病院は感染症の病棟はあ

りません。新しく建てる病院には2床できますが、この感染症の水際作戦をどうするかという問題がございます。

新八重山病院についてですが、聖路加病院を造る時に、私はちょうど厚生省の病院管理研究所におりました。その時に学んだ事ですが、聖路加病院はマリア像を囲んで建物があります。人は非常に弱いです。病院の中でも祈りの場がないとだめだという事を教えて頂きました。新しく出来る病院は、ちょうどニライカナイの南西の方向と於茂登山を基軸にして造られています。なぜかという、明日自分の子供が手術するとなった時、何所で祈るか、祈る場所というのは於茂登山を見ながら、あるいは海の方のニライカナイを見ながら祈ろうじゃないか。その事を設計士にお願いして、設計しております。そうすると西日が非常に強くなりますから、斜めにして西日が入らないような形になっております。それから病室は一床の病床と、六床というのは絶対にやらないでほしいと言う事で、四床止まりでございます。

医療法は1948年に出来まして、保険制度と一体化になったのが1961年です。それで世界にまれに見る介護保険制度ができました。「いつでも・だれでも・どこでも」必要な医療を受けることが可能になりました。現在その医療等については31兆円かかっているということです。それを減らすために厚労省は在宅医療・介護を推進しています。そうすると今後どういうふうになるかと言いますと、皆様ご承知の通り90日ルールというのがあります。だいたい3ヶ月で転院してくれという事があります。何かというと入院90日(3ヶ月)が来ると、診療報酬体系で経営が出来ない数字になっています。だから病院として経営するためには90日で入れ替えをしないといけないという事になっています。それからもう1つターミナルケア、末期がんの方、みんな那覇に出ています。そういう施設、また部屋が那覇にはございます。八重山にはないです。ですから我が島でもこういう施設を造れたらと思っています。

八重山における非常に威張っていいんじゃないかなと思っている医療があります。マラリヤの撲滅です。琉球政府当時マラリヤが蔓延していました。それを昭和35年八重山民政府の衛生部長大浜信賢先生やウィーラープランによって、マラリヤを撲滅しました。世界でマラリヤで亡くなってい

る方は100万人近くおります。八重山病院を造る時に、マラリヤ研究所を造って欲しくないかとお願ひしましたら、資金がないという事でございました。なぜならば八重山病院には財産があります。どういう財産かということと生まれてから亡くなるまで、人の一生のカルテがあります。こういう研究所を造って、世界に発信していく、あるいは世界から学びに来てもらいたいということ等も、八重山病院を造る時にお話ししましたが、思うようにいかない。また、今、介護等についてはフィリピンの女性の皆さんが頑張っています。日本の介護士の資格を持っている人は相当レベルが高いという事です。環境が似ていますので、八重山にそういう学校を造って、ここで勉強してそれから本土に行ったらどうかという提案をしましたが、なかなかそこまではいかないというようなこと等が現実にごございました。

天気が一番いい日なぎの時に海岸に押し寄せる波、一分間で18回と聞きました。18というと、人間の体の中で呼吸回数になります。18の倍36、体温です。36の倍144高血圧症です。144の倍288、生命の誕生。そういうふうに私は月からの使者と言っていますが、琉球大学の医学部の先生たちが我々は亡くなる時には引き潮、生まれる時には満潮の時、という事を研究しました。結果は50%の確率でそうなる。このように自然環境と我々人間の身体は案外繋がりがああるんじゃないかと、言われております。八重山は八重山の四大悲劇というのがございます。そこにマラリヤと人頭税と強制移住、オヤケアカハチ事件、マラリヤにかかって亡くなった方が3,647名です。それから人頭税は266年間、今から111年前まで人頭税があったわけです。それからオヤケアカハチ事件は1500年代です。その時の医療は各島々、各地域には長けたじいさん、ばあさんがいたようでございます。そういうことをまとめたら、八重山の医療資源として非常に価値があるのではないかと思います。

2030年の人口ピラミッド、自衛隊が入ると事を頭に入れない計算ですが、石垣市が48,345、竹富町が2,297、与那国が1,201、トータル八重山は51,843名。宮古島市が42,144名、多良間が874名で、宮古は43,018名、8,825名八重山の人口が多くなっています。この人口ピラミッドを見た場合、お年寄りが多くて、若者がいないわけです。

どのようにしたらいいのか、医療や介護どのようにするのか、という事は自ら考えなければならない。八重山病院は350床持っていますが、今回288床で稼働します。まず人がいない。お医者さんがいません。看護婦も地元の人がいけません。そういう人材難でして、八重山の医療を守る郡民の会としては、ぜひとも人材を作ろうと言う事で、活動方針に地元出身の医療人を育てる、あるいは介護人を育てようというような事を挙げています。また「コンビニ受診をやめましょう。」病院は24時間開いているからいいじゃないか、自分の都合で行けばいいじゃないかという事ではなくて、開院時間に行ってほしいという事です。それから、「かかりつけ医をもちましょう。」すぐ八重山病院に行くのではなく、日頃から身近な医者にみてもらう事が必要であります。「全国並みの医師数を確保する。」新八重山病院4階まで出来ています。そうしますと今度は八重山病院の医療器の問題、あるいは人材の確保の問題が出てきます。医療機器と人材を確保しなければ部屋が空いてしまいます。もう1つはお年寄りには方言しか話しません。通訳は看護婦がしてくれないと困ります。また竹富町と与那国町、薬剤師が1人もおりません。今回お願いして、薬の卸問屋、東洋薬品という日本でも大きな会社ですが、造って頂きたいという事で、大浜の入り口で営業を始めました。1つ1つみんなが力を合わせて先生達あるいは住民が一体にならないと今後医療、介護の難民が出ます。非常に心配している所です。

それから新八重山病院は掘ってみたら爆弾が36発でました。その為にだいたい70日くらい遅れます。今から建物以外の駐車場を造ります。何が出て来るかわかりません。今お願いしているのは八重山病院を中心にして300mを必ず掘ってくれと、そうしませんと後から爆弾が出た場合に、避難をしないといけない。どこに避難するのかとなります。この磁気探査等については国が責任を持つと、国会で答弁していますので、こういう制度を有効的に利用するという事が我々の研究しながら、求められるのではないかと感じます。

☆。例会風景。☆。☆



相模原西RCの伊藤さん、ご来会を難うございました。



二度目の卓話、ありがとうございました。

HAPPY BIRTHDAY

仁開 一夫氏 1954年5月3日
宮城 隆氏 1952年5月6日